

授業科目名	織・編		
授業担当者名	杉浦 晶子、鈴木 成子		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次前・後期
教員担当形態	オムニバス	備考	実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリグコード>	(1)織機・編機の構造を理解し、使い方を習得する (2)基本的な織り方・編み方の技法を身につける (3)素材にあった織り方・編み方と仕上げの方法を習得する (4)織と編の基本構造を理解する 以上を到達目標として、課題を完成させる。 (「知識・技能」◎、「思考・判断・創造力」○) <223-1FCT2-05>
授業の概要	【織】 本格的な足踏み式手織機を用い、純毛マフラーを制作する。平織、綾織、ななご織を練習し、好みの配色でマフラーを織上げ、縮絨（毛織物の仕上げ）をする。 【編】 編機を使用して、基本的な操作方法を学びながらモヘアのスヌード、ネックウォーマーを製作し、編地の基本構造と特徴を実習を行いながら学ぶ。
学生に対する評価の方法	【織】 マフラーの完成度と創意工夫（80%）、仕上げとレポート（20%） 【編】 作品の提出（90%） 受講態度（10%）以上2点から総合的に評価する。 ※作品提出日は厳守。 【織】 【編】 の成績を総合的に評価する。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	【織】（杉浦 晶子） 第01回 手織の行程、糸量の計算 経糸の整経 第02回 経糸を織機にセット 第03回 経糸を織機にセット 試織（平織、綾織、ななご織） 第04回 マフラーの制作 第05回 マフラーの制作 第06回 マフラーの制作 第07回 かけつぎ 房の始末 第08回 マフラーの縮絨 組織図作成 <授業全体の振り返り>と講習会 【編】（鈴木 成子） 第01回 編機の説明と編目が出来る原理を学習する。 編み物の基礎と編機の使い方を学ぶ。編み方の練習 第02回 引き上げ模様のスヌードの制作 第03回 ネックウォーマーを編むための編み方の練習 引き上げ模様のスヌードのアイロン、仕上げ 第04回 ネックウォーマーの縄編み模様の制作 第05回 ネックウォーマーの縄編み模様の制作 第06回 ネックウォーマーのメリヤス編みの制作 ネックウォーマーを製図にピン打ち、アイロン 第07回 ネックウォーマーを編機を使い、はぎ ネックウォーマーの、とじ 第08回 実習 ネックウォーマーの仕上げ、 <授業全体の振り返り>、作品提出日 ※1回は90分授業を2コマ分とする

使用教科書	<p>【織】 プリント配布</p> <p>【編】 提出作品のオリジナルテキスト、編み機に関する資料 編み機に付属のテクニックブック、トラブルブック</p>
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>【織】 手織りに関する資料を読み、制作の行程、平織・綾織の仕組みを確認しておく。（週90分） 配色によっては時間がかかるため、授業前後の時間を利用して課題を進める。（週90分）</p> <p>【編】 編み機に関する資料を読み部品用語と操作用語を事前に学んでおく。（週90分） 制作に時間がかかるため授業前後の時間も利用して編むようにする。 また、教室に置いてある棒針、かぎ針、ボンボンメーカー、教則本を利用する。（週90分）</p>

授業科目名	染色デザイン I		
授業担当者名	白柳 まどか		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	備考	実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナバリグコード>	<p>一人の手で始めから、最後まで行う手染の技法を習得する。手仕事の個性と、技術から生まれる独特の美の世界を知る。各々の感性や自由な発想力を養う。</p> <p>(1)色、形、空間などの模様を構成する要素について理解する (2)型紙を用いる型染の特徴を知り、技法を体験する (3)個性的なオリジナルの図案を考える (4)技法による制約を理解し、限界に挑戦する思考を培う （「思考・判断・創造力」◎、「知識・技能」○）</p> <p><223-2FCT2-06></p>
授業の概要	<p>防染法（型染）と直接法（ステンシル）を用いて、実際に作品制作をする。技法による制約や限界に挑戦しながら、作業を進める中で、技法による何らかの発見があることを期待する。</p>
学生に対する評価の方法	<p>作品にレポートをつけて提出（課題2点とレポート2点）。作業内容が多いため、欠席を避けること。授業内容の理解度と作品の完成度（作品の評価50%、レポート20%）、授業への取り組み（30%）として、評価する。さらに、作品の評価については、授業内容の理解度に加え、各々の創意工夫を評価する。準備したものを持参しないと、作業に支障をきたし、評価に影響するため、忘れないようにすること。</p>
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	<p>第01回 染色技法とデザインの必要性について学ぶ。 「型染」技法説明、参考作品を見る。デザインを決め、下絵を描く。</p> <p>第02回 デザインチェック、型紙を彫る、紗張りをする。</p> <p>第03回 型染実習（1）糊をつくる、型付。</p> <p>第04回 型染実習（2）色差し。 「ステンシル（摺り込み）」技法説明、参考作品を見る。</p> <p>第05回 型染実習（3）色止め、水元。 「ステンシル」デザインチェック、型紙を彫る。</p> <p>第06回 ステンシル実習（1）1色目の摺り込み、「型染」講評と振り返り。</p> <p>第07回 ステンシル実習（2）2色目、3色目の摺り込み、講評と<授業全体の振り返り>とフィードバック。</p> <p>※1回は90分授業を2コマ分とする</p>
使用教科書	資料プリント配布
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	<p>日頃から、美しいと感じる物の写真や、絵などを集めておくと、デザインを決める際に、スムーズに作業に取りかかることができる。自己学習で、予習として模様やデザインの構成を考えてくる。（週90分）</p> <p>また、作業のつづきやレポートを作成。（週90分）</p>

授業科目名	舞台芸術・衣裳		
授業担当者名	下斗米 雪子、岡田 直子		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス	備考	実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナバリグコード>	(1)オペラの内容、時代背景、作曲家、ドラマの特徴を理解する (2)演出家によって描かれる表現や個性の違いを理解する (3)作品選びから舞台上演まで創造過程と実際に行われる作業について理解する (4)作品における人間像と表現について自主的な視点と感性を磨く。 以上を到達目標として、オペラを主に舞台芸術とその衣裳についての基本的な知識を修得する。 (「知識・技能」◎、「思考・判断・創造力」○) <223-1FCO1-01>
授業の概要	この授業では、舞台衣裳の創作に直接結びつくオペラを映像で鑑賞し、歌・管弦楽・演奏・オペラハウス・台詞・演技・演出・演劇・文学・美術・建築・歴史・哲学・社会史・宗教・心理学・自然科学にいたるまで、オペラに関するありとあらゆる人文諸科学を詳細に考察しながら、「舞台芸術の魅力」に迫る。 また、実際に4演目のオペラの内容に基づいて、各々のキャスト・合唱・その他の出演者の衣裳をデザインして衣裳香盤を作成する。
学生に対する評価の方法	劇場内での作業を中心としたプロフェッショナル育成を目的とした科目である。時間厳守・受講態度・礼儀などの評価を重視する。 受講態度（20%）、授業課題（80%）で舞台芸術と舞台衣裳を合わせて総合的に評価する。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	【舞台衣裳】 <下斗米・外部講師> 第01回 舞台衣裳全般 ・舞台衣裳の持つ役割、意味、効果、その他 第02回 衣裳香盤とデザインを作ってみる。 ・ソリストと合唱の関係。装置、照明と衣裳の関係について学習する。 第03回 劇場のあり方とバックステージ見学<外部講師> ・外部講師とホールの都合で、順番が変更になる可能性もある。 第04回 バックステージでの作業・専門用語など 実践に必要なマナー、常識などを学習する。 【舞台芸術】 <岡田> 第01回 オペラ「アイーダ」から 音楽とヴィジュアルの魅力：グランドオペラ形式 第02回 オペレッタ「こうもり」から セリフと芝居と人間の描き方：演出によって異なる個性 第03回 オペラ「椿姫」から 作曲家とオペラのドラマトゥルギー：オペラは人生の写し絵 第04回 オペラ「カルメン」から 登場人物の性格付けと表現：変化するから面白い ※1回は90分授業を2コマ分とする ※最終授業にて、<授業全体の振り返り>を実施。
使用教科書	担当者作成の資料。
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業時に示される次回授業の作品について予習する。（週90分） 授業時に示された作品についてさらに造詣を深め、その原作を読む。 また、自主的に課題の作品はもとより、同じ作曲家の他の作品など関連作品を鑑賞する。 （週90分）

授業科目名	グッズ・クリエイト I		
授業担当者名	小川 明伸		
単位数	2	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	単独	備考	クリエイティブコースのみ 実務経験のある教員担当科目
授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナバリングコード>	(1)物作り（バッグ）の製作工程を理解する (2)革用ミシンの使用方法を習得する (3)革の基本的裁断技術を習得する (4)限られた環境（時間・道具）の中で段取りを組む力を身に付ける 以上を到達目標とする。 （「思考・判断・創造力」◎、（「知識・技能」○） <223-2FSC2-03>		
授業の概要	与えられた3個の課題を、材料の選択、確保から始まり、裁断 手作業 縫製と手順を踏み完成させる事を、目的とする。特にレザーを使用する事により必要となる皮漉き機や総合送りミシン（平ミシン・腕ミシン）の基本的な使用方法を習得する。		
学生に対する評価の方法	(1)授業への参画態度 （30%） (2)作品を作る過程における段取りのよさ （30%） (3)前作で習得した事が、次回作にどれだけ生かせるか（応用力） （30%） (4)作品の完成度 （10%） 以上4点から総合的に判断する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 本授業を受けるにあたり、必要な道具及び材料の調達方法の説明 第02回 1作目 帆布製トート 裁断 第03回 1作目 帆布製トート 裁断 手作業 第04回 1作目 帆布製トート 手作業 縫製 この回で完成予定 第05回 2作目 レザーA4 ショルダー 裁断 第06回 2作目 レザーA4 ショルダー 裁断 手作業 第07回 2作目 レザーA4 ショルダー 手作業 縫製 第08回 2作目 レザーA4 ショルダー 手作業 縫製 第09回 2作目 レザーA4 ショルダー 縫製 この回で完成予定 第10回 3作目 リュック（生地or革） 裁断 第11回 3作目 リュック（生地or革） 裁断 手作業 第12回 3作目 リュック（生地or革） 手作業 縫製 第13回 3作目 リュック（生地or革） 手作業 縫製 第14回 3作目 リュック（生地or革） 手作業 縫製 第15回 3作目 リュック（生地or革） 縫製 この回で完成、授業全体の振り返り		
使用教科書	なし		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業準備として生地の裁断、次回授業に向けて復習と予習をしてくる。（週90～180分）		

授業科目名	グッズ・クリエイトⅡ		
授業担当者名	鈴木 達也、内山 友晴		
単位数	2	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	複数	備考	クリエイティブコースのみ 実務経験のある教員担当
授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナバリングコード>	(1)靴の基本的な構造を学ぶ (2)採寸等を行い自分の足を分析する (3)様々な革の特徴を分析する (4)トータルデザイン力やそのデザインを形にする技術を実習を通して取得する 以上の(1)~(4)を到達目標とする。 (「思考・判断・創造力」◎、「知識・技能」○) <223-2FSC2-04>		
授業の概要	ファッションアイテムの一つでもある靴の製作技術や皮革の基本的な知識を学ぶことにより、トータルでファッションを生み出す力を身に付ける。		
学生に対する評価の方法	提出作品(70%)、授業への参画態度など(30%)を総合的に判断して評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 靴について(資材等の説明・革の特徴について等) 第02回 使用機器・道具の説明 第03回 靴の製作方法について 第04回 採寸等により足を知る 第05回 靴のデザインを知る 第06回 靴の製作（製甲作業） 第07回 〃 第08回 〃 第09回 〃 第10回 底付作業 第11回 〃 第12回 〃 第13回 〃 第14回 仕上げ作業 第15回 靴と永く付き合う為の手入れを知る・作品提出 <授業全体の振り返り>		
使用教科書	担当者作成資料		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	専門の機器を用いた授業の為、授業の復習をすること(週90分) 靴についての知識を深めるため専門的な視点で靴や販売店を観察すること。(週90分)		

授業科目名	テキスタイル制作		
授業担当者名	島上 祐樹		
単位数	2	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	備考	クリエイティブコースのみ 実務経験のある教員担当科目
授業のテーマ及び到達目標(D Pとの関連)<ナバリングコード>	(1)目的にあったテキスタイルを企画する能力を身につける (2)企画したテキスタイルを設計する能力を身につける (3)設計したテキスタイルを制作する能力を身につける (「意欲・態度」◎、「思考・判断・創造力」○) <223-4FSC3-05>		
授業の概要	自らイメージしたテキスタイルを設計し、制作する。 扱うテキスタイルは織物を中心とする。 制作に必要なテキスタイルの設計（素材、糸種、織物規格、加工）を行う。 設計したテキスタイルを制作、完成させて、プレゼンする。 テキスタイルコンテストへも積極的に参加する。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（20%） ②作品の完成度（50%） ③ポートフォリオ、およびプレゼン（30%） 以上3点から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 テキスタイル企画 第02回 テキスタイル企画プレゼン 第03回 テキスタイル設計1 規格設計 第04回 テキスタイル設計2 素材準備 第05回 制作、および加工の予備実験 第06回 試作 第07回 制作準備1 糸加工、たてよこ糸準備 第08回 制作準備2 糸加工、たてよこ糸準備 第09回 制作1 第10回 制作2 第11回 制作3 第12回 制作4 第13回 仕上げ1 第14回 仕上げ2 第15回 プレゼン、および<授業全体の振り返り>		
使用教科書	担当者作成資料		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	経糸準備、製織は時間がかかるため、計画通りに進められるよう織物の基本知識を復習しておく。（週90分） テキスタイル論で学習した織物の項目を特に見直しておくこと。 授業が開講される前までに作りたいテキスタイルのイメージを膨らませておく。（週90分） 必要があれば、事前に授業担当者と相談する。		

授業科目名	創作テキスタイル		
授業担当者名	杉浦 晶子		
単位数	1	開講期（年次学期）	3年次前・後期
教員担当形態	単独	備考	実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナビリングコード>	(1)ドビー式コンピューター織機と同じ構造であるレバー式卓上織機を使用し、思い通りの組織を織る技術を身につける。 (2)目的にあった素材や密度を選び、必要な糸量の計算方法を身につける。 (3)独創性のある素材や織り方を工夫する力を養う。 (4)思考・判断し適切な仕上げをする。 (「思考・判断・創造力」◎、「意欲・態度」○) <223-2FCT3-09>
授業の概要	2年次の授業で織の全ての工程と平織、綾織、ななこ織を学習した学生を対象とし、柔軟な発想を持って素材や織組織を選択し、独創性かつ面白みのある織物を自由制作する。服地、バッグ地、ショールなど明確な使用目的をもったテキスタイル、またはテキスタイルコンテストに応募するための作品とする。 たて糸の動きがわかりやすいレバー式卓上織機を使用するので、平織、綾織の他にも二重織や昼夜織、ワッフル織など多綜統組織に挑戦できる。
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（10%） ②作品の創意工夫と完成度（80%） ③織の基本の理解度……デザインや制作を進める過程とレポートで判断する。（10%） 以上の割合で評価する。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 様々な素材や組織の織物を吟味し、発想を具体化し草案を提出する。 第02回 草案から技法・素材・色などを決定する。 組織図の作成、糸量の計算 (次回までに材料の必要量を準備する) 第03回 経糸の整経 第04回 経糸の整経 経糸の筈通し 第05回 経糸の綜統通し 第06回 経糸の巻き取り 第07回 織り付け、試織 第08回 織る 第09回 織る 第10回 織る 第11回 織る 第12回 織る 第13回 カード織（早く完成した学生のみ） 第14回 カード織（早く完成した学生のみ） 仕上げ（傷なおし、房づくり等） 第15回 縮絨・水通し・講評 <授業全体の振り返り>
使用教科書	必要なプリントを配布
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	日ごろからテキスタイル素材に興味を持ち、面白い布を見つけたらよく観察しておく。 2年次で履修した織の基本を復習しておく。（週45分） 授業において決定した作品の糸量を計算し、最適な材料を準備する。（3時間） 次回の作業工程を確認する。（週20分） 平織・綾織以外の組織図を本などで確認し、デザインを具体的に考える。（週45分） 織り上げた作品を仕上げする前に、織傷をなおしたり房を作る。（2時間）

授業科目名	ファッション造形演習 V		
授業担当者名	上野 敦子、武山 昌子、高橋 久仁子		
単位数	1	開講期（年次学期）	3年次（集中）
教員担当形態	オムニバス	備考	実務経験のある教員担当科目

授業のテーマ及び到達目標(DPとの関連)<ナバリグコード>	(1)刺繍と帽子の基礎知識を修得する (2)刺繍の基本ステッチの技術や様々な技法を身につける (3)帽子の基本的な制作方法および縫製技術を習得する (4)刺繍や帽子の技術を作品へ活かすデザイン力と応用力を養う 上記を到達目標とし、ファッションの一部として欠かせない装飾および縫製技術を刺繍や帽子の講義および実習を通して修得する。 （「知識・技能」◎、「思考・判断・創造力」○） <223-1FCC2-07>
授業の概要	「刺繍」と「帽子」の基本的な技術・知識を学び、作品を制作する。 「刺繍」では、基本的なステッチの技術を学び、その他刺繍の技法を用いた装飾技術を身につけ、習得した技法を活かした作品を制作する。 「帽子」では、基本的な型紙の作り方や縫製方法を学び、デザイン性の高い帽子の制作技術を身につける。ファッションデザインを衣服のみではなく被服としてとらえて知識を深め、ものづくりの楽しさや充実感を体得する。
学生に対する評価の方法	作品課題（80%）、授業への参画態度・課題提出状況など（20%）を総合的に判断して評価する。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	【刺繍】 <上野> 第01回 刺しゅうの歴史や基本知識について 第02回 基礎的な刺しゅう技法 第03回 基礎的な刺しゅう実習 第04回 刺しゅう技法（応用）① 第05回 刺しゅう技法（応用）② 第06回 刺しゅう作品制作① 第07回 刺しゅう作品制作② 第08回 まとめ（課題に対するフィードバック） 【帽子】 <武山・高橋> 第09回 帽子の歴史や種類について 第10回 帽子の構造について パターン作成① 第11回 作品制作① 第12回 作品制作① 第13回 パターン作成② 第14回 作品制作② 第15回 作品制作② 第16回 まとめ（課題に対するフィードバック）
使用教科書	【刺繍】 戸塚刺しゅう Stitch book ※大学から貸与 【帽子】 担当者作成の資料
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	刺繍や帽子に対する造詣を深めるための、復習および予習を行うこと。 授業時に示される次回授業について予習する。（週45分） 授業時に示された課題または授業で生じた疑問点について調べる。（週45分）